

京都 だより Kyoto Dayori

クライアントの心を動かす

【特集】 スケッチプレゼンテーション講座

長谷川矩祥

*肩書、所属等は掲載当時のものです

- 2016年 6月号 第1回「手描きにこだわる」
- 2016年10月号 第2回「客前早描きスケッチ」
- 2017年 2月号 第3回「パステル着彩スケッチについて」
- 2017年 4月号 第4回「一焦点透視画法スケッチについて」

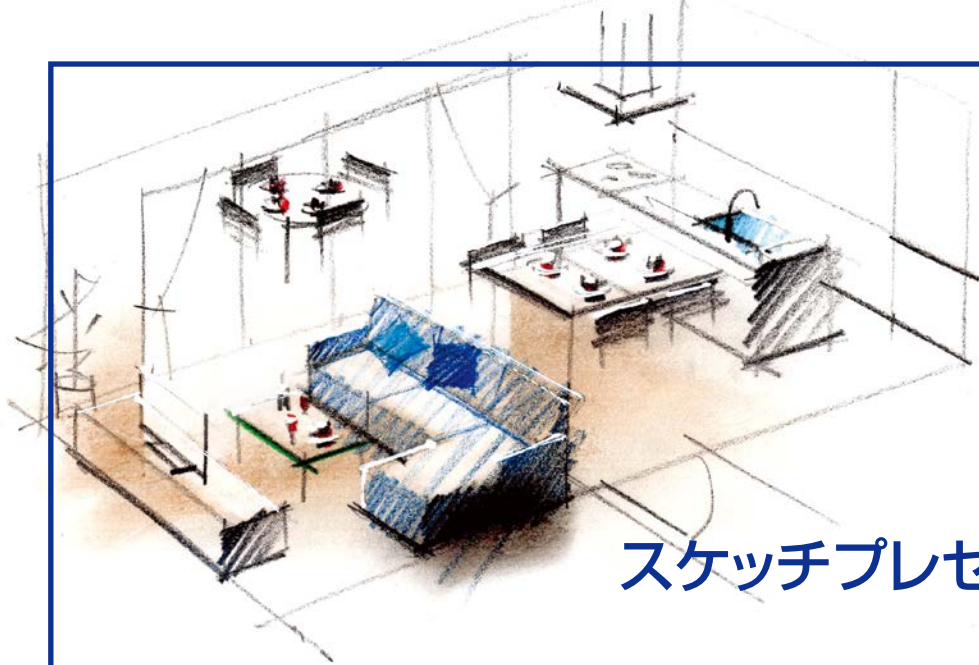


KYOTO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

一般社団法人 京都府建築士会

<https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp>

(一社) 京都府建築士会

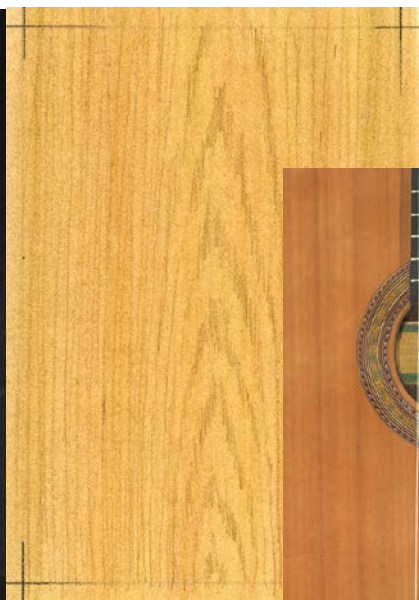


クライアントの心を動かす スケッチプレゼンテーション講座 〈第1回〉

長谷川矩祥 Hasegawa Noriyoshi



〈図3〉カルロス・サンタナのギター



〈図1〉



〈図2〉

『手描きにこだわる』

コンピュータが未だ普及していない時代のプレゼンテーションは手描きの世界でした。特に私が在籍していた日本楽器製造株式会社（現ヤマハ株式会社）では、大いに手描きの腕を磨くことができました。デザインがほとんど一般の人が見ても差別化できない楽器は、ディテール（細部）での勝負（図1）。いかにリアルに木目を描き分けるか（図2）、仕事を通じて修業ができました。

高校時代に初めてギターにふれて、技術は自己流で覚えてこの楽器に興味を持ちましたが、特別に高い志はなく「ヤマハに入ったらギターがもらえる」程度の軽い気持ちで浜松に本社があるヤマハに入社。運良くビートルズ、ベンチャーズの来日などによって空前のギターブームが到来。当時の社員の中でギターが上手かったことが幸いし、ギターのデザインを任されるようになりました。

そして製品のデザインが順調にいったころ特注品の依頼が来て、ジョン・レノンやカルロス・サンタナのギターデザインを手がけました（図3）。

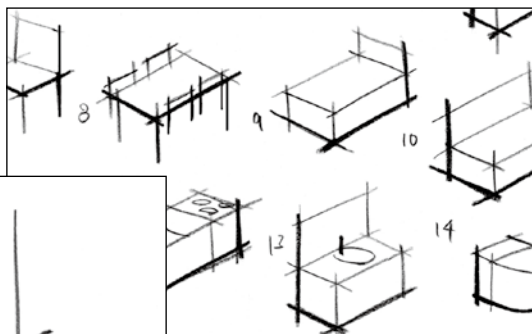
30年前にヤマハ株式会社から住宅設備部門が離され、ヤマハリビングテック株式会社の住空間デザイン室長になりましたが、ギター馬鹿の私にとってはこの分野（住宅設備）はまったくの未経験分野。いろいろ住宅会社を廻ったり相談したりして私に出来る仕事はないかと思ひ悩みました。

ギターデザインではプロかも知れませんが建築、住宅関係は全くの素人同然。いくら頑張つて人と同じ事をやっても自分にはできそうになく、そこで視点を変えて「デザイン教室」を企画し、これから家を建てたい、リフォームしたい一般の人を対象に「自分の家は自分デザインしよう」と全国各地で展開。ここでは一般の方から多くのものを学ぶことができました。開催して参加者の絵を手伝っていくうちに、初期段階のコミュニケーションでは絵が必要と言う事がわかってきました。

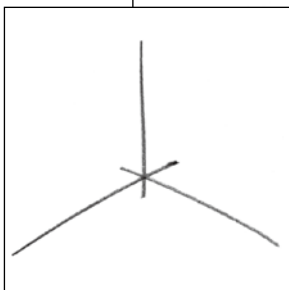
住宅の打ち合わせの場面では、スケッチがあると今まで寡黙だった参加者の口が少し開かれてくるようになってきて、さらにスケッチを進めていくととても饒舌になってきたりします。「そう、そう」とか「ちょっと違うかな」などと確認できます。そして「あ、あしたい」「こうしたい」が早めに出てきます。上手く描かれたものは必要なく、わかりやすければそれでいいのです。むしろ上手く描けば描くほど「なんか絵でだまされそう」なんて言われてしまいます。むしろ下手な方がいい。「実際の家はこの絵よりいいよね」上手く描いた絵より実際に建つ家がいいに決まっています。往々にして絵が下手だから、苦手だから、絵心がないからと専門家が客前で絵を描くことを躊躇しています。一般の人は専門家の絵の上手い下手などどうでもいい話で、スケッチがあると無いよりは「わかりやすい」ことが肝要です。

これから家を建てようとする、もちろん夢もありますが、いろいろとわからないことがたくさん出てきそうで不安感を持つ人が多いのが現実です。そういう人たちに、より早い段階で「見える化」してあげたい。それには専門家が絵を描くこと。

住宅関係の専門家でも絵の苦手な人も沢山います。そのためには難しいのではなくコミュニケーションの一つとして簡単に描ける事がポイントになります。小学生で習う漢字は6年間で1006字。1年生では80字です。この1年生で習う漢字より簡単だったらどうでしょう。絵が苦手、絵心がない人でもスケッチを描けるようになります。少なくとも16個（私はスケッチ語と呼んでいます〈図4〉程度にまとめてみました。線は3種類〈図5〉。



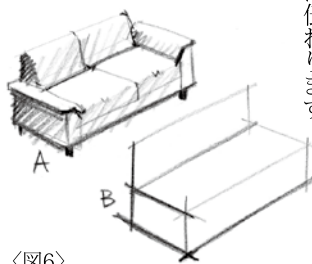
〈図4〉16個のスケッチ語(部分)



〈図5〉3種類の線

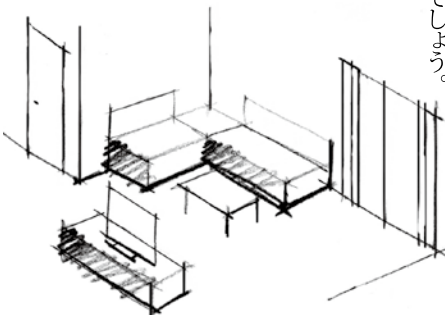
基本的にはこれの組み合わせです。これを覚えればいいのですから、とはいっても専門家の方たちは大変忙しい。それでも小学校1年生が80字覚えるのにノートに漢字書き取りを一生懸命やっていることからすれば、16個は80字のたった5分の1程度です。

通常の住宅の打ち合わせに出てくる基本スケッチ。例えばソファはAまで描き込まなくてもB〈図6〉でも初期段階の打ち合わせでは十分に伝わります。



〈図6〉

家具や設備は特別なデザインではなくして流行に左右されるものでもなく、標準的でOKです。その組み合わせで描いたのがリビング空間〈図7〉。1分程度あれば描けるでしょう。

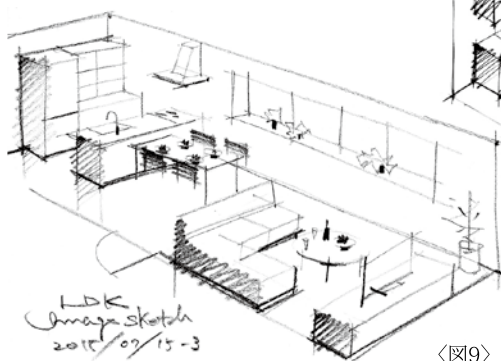


〈図7〉

少し広い空間ならば3分〜5分ぐらい〈図8・図9〉。いろいろなケースはありますが、メモ・スケッチに簡単な着彩して10分位で仕上がりければ客前での打ち合わせで使えると思います。

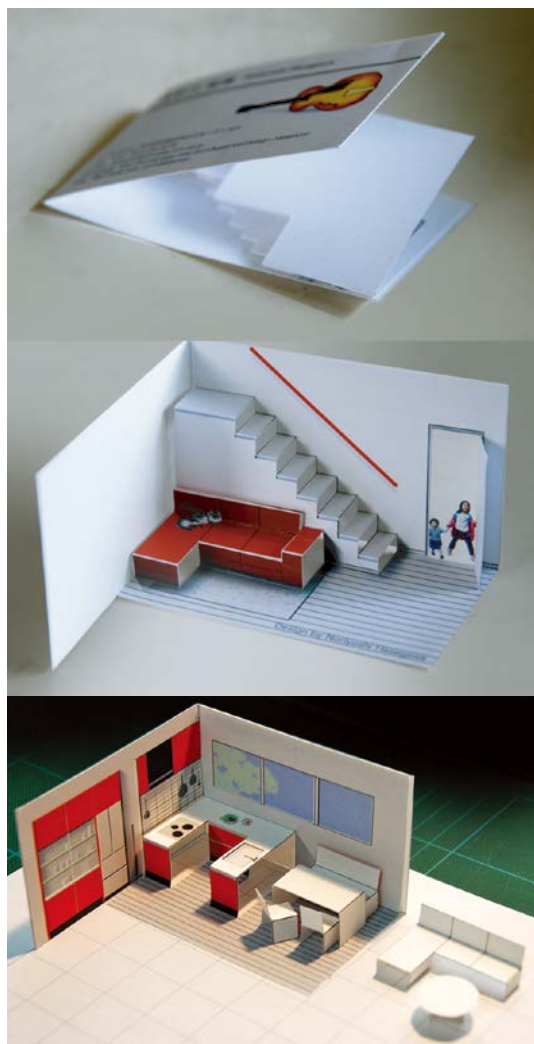


〈図8〉



〈図9〉

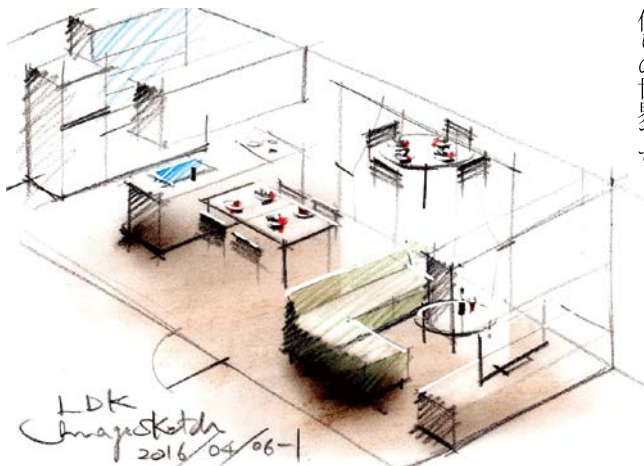
この客前早描きスケッチ（メモ・スケッチとかコミュニケーション・スケッチとよんでいます。）のテクニクや応用について、次回から解説していきたいと思います。



上・簡単に紙を切って折り曲げるだけでできる、講習会で評判の『立体名刺』

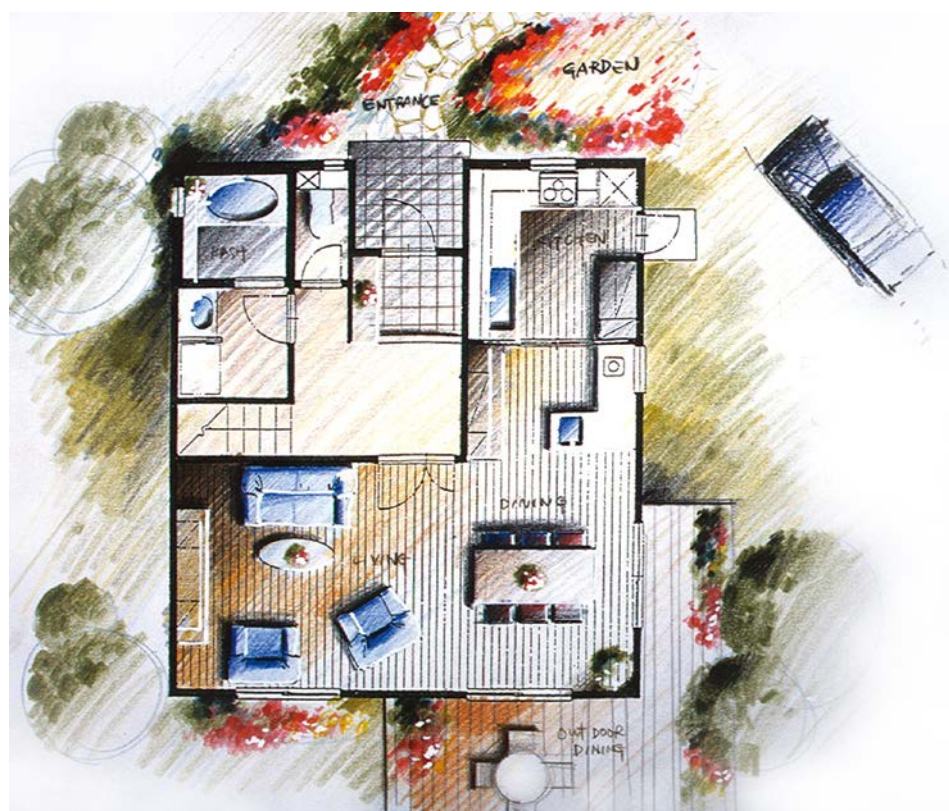
中・その立体名刺を開いたところ

下・立体名刺と組み合わせて、お客さんと50分の1のサイズのテーブルや椅子、ソファのレイアウトを楽しむプチ模型(扇風機、クシャミ厳禁!)



▲施主とのプレゼンテーションの初期段階がメモ・スケッチ『客前早描きスケッチ』(前頁・図9に着色)

『ちょっとだけ手間暇』
今回はこのメモ・スケッチの他に、顧客が心を動かすプレゼンテーションメニューをいくつか紹介します。いずれもこのデジタルの時代に手描き、手作りの世界です。



▲必ず描かれる図面は、一般の人には馴染みにくいCAD図面ではなく『魅せる平面図』に



▲施主との夢の共有化として『イメージ着彩スケッチ』▶



いろいろな場面でのプレゼンテーションに対応出来るメモ・ス
 ケッチから簡単立体紙模型まで。
 目指すは、お客様の求めるメニューを料理してもてなす
 大衆食堂のオヤジ。



長谷川矩祥

Hasegawa Noriyoshi

ヤマハで主に楽器（プロ向けのギ
 ター。ジョン・レノン、カルロス・
 サンタナ、他）のデザイン、スポー
 ツ用品、ロゴマーク等を手掛ける。

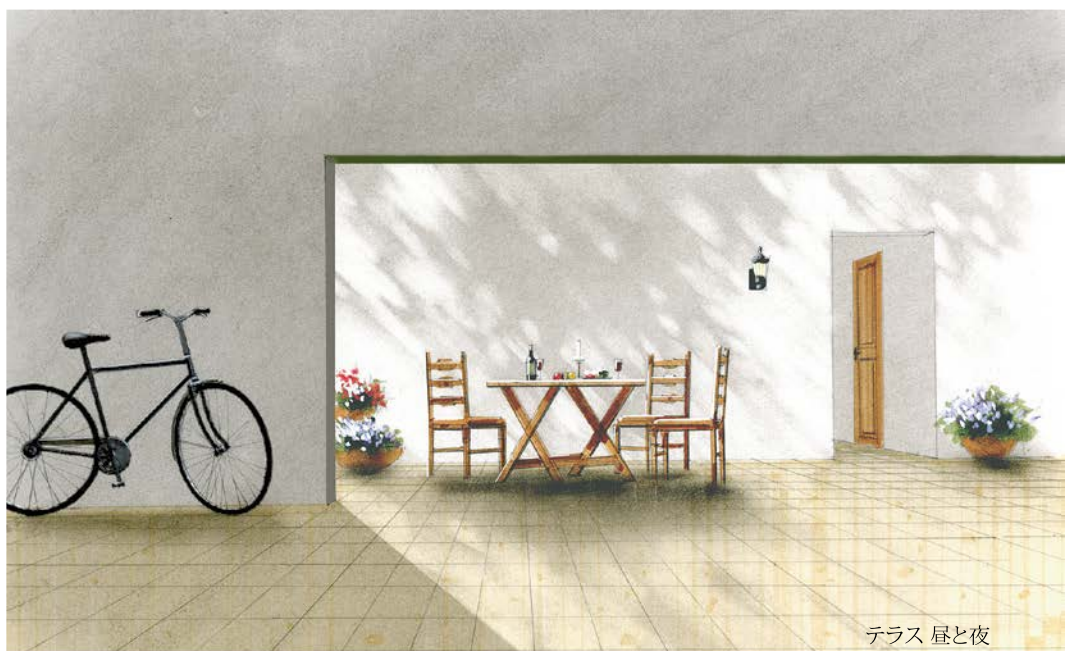
現在独立して住宅関連の研修、講
 演（スケッチ、パース、プランニング、
 プレゼンテーション）。
 ロゴマーク、パース制作。

著作はグラフィック社から「住まい
 のスケッチ・スピードトーク」他、
 HIPS 出版から「メモスケ」他。

【セールスポイント】何事も楽しく、
 わかりやすくがモットー。



▲ 少し時間を掛けて『着彩パース』▼



テラス 昼と夜

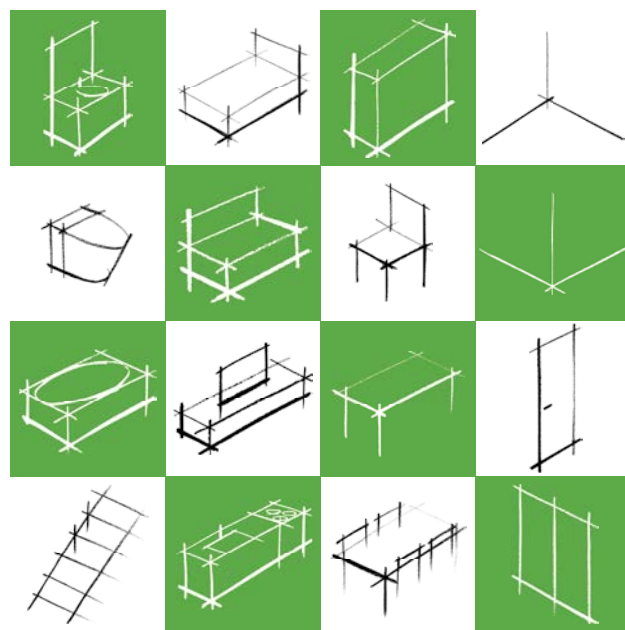


クライアントの心を動かす スケッチプレゼンテーション講座 〈第2回〉

長谷川矩祥 Hasegawa Noriyoshi

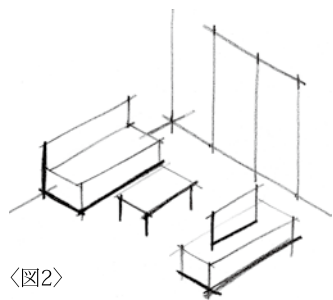
客前早描きスケッチとは

スケッチプレゼンテーションで特に重要な
のが、初期段階での客前でのスケッチです。
これによって顧客との大まかなイメージの共
有を図ることができます。メモ程度の簡単
な絵なのでメモ・スケッチ。また、お客さ
んとの打ち合わせ時に描くのでコミュニケーション・スケッチとも呼んでいます。当然、
時間を掛けて描いていたのでは話になりませ
ん。いかに早く描き上げるか（あくまで目
安ですが10秒ほど）がポイントになりま
す。それは手を速く動かすことではなく余
分な線を省略します。資料を見ながら描い
ていたのでは間に合いません。設備、建具、
家具、間取り等をあらかじめ標準化して「た
たき台」としてスケッチを描いて見せます。
「これです」ではなく「こんな感じ」です



〈図1〉16個のスケッチ語

プロボード等）／椅子／テーブル／テーブル
セット／ベッド／ソファ／TVボード／キッ
チン／洗面化粧台／便器／バスタブ／階段
です（図1）。これを覚えて（練習して）丸
暗記します。つまり見ないで描けるよう
にします。この基本スケッチ語を幾つか組み合
わせれば空間になります、例えば入り隅＋ソファ
＋テーブル＋TVボード＋掃き出し窓でリ
ビング空間になります（図2）。
客前スケッチは
早く描き上げ
ることがまず命
題なので余分な
要素を極力省
き、できるだけ
シンプルに描き
上げます。



〈図2〉

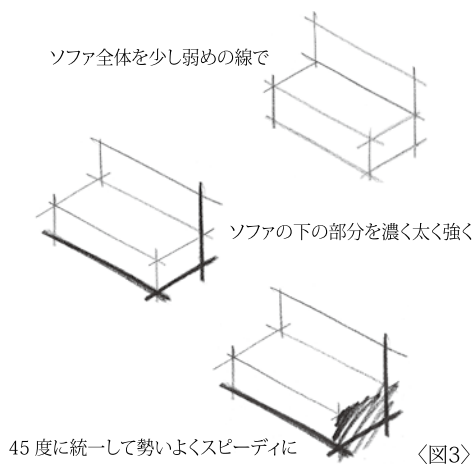
打ち合わせの初期の段階で
はこの程度で充分です。ただ
しそれには設備、建具、家
具をそれぞれひとつの「単語」
として覚えておく必要があります。
その単語を「スケッ
チ語」と呼びます。客前
でスケッチを描くわけですから
簡単に描けることが何よりで
す。基本のスケッチ語として
16個程度覚えていれば客前
早描きスケッチが描けます。
仕事によって基本スケッチ
語は異なるとはありますが私
がよく使うのは入り隅／出
隅／ドア／窓／タンス（カッ

手描きスケッチの味

基本的な空間の描き方を紹介しましたが
線を描くときにメリハリが付けられると表
現の幅が広がりスケッチに味が出ます。ソ
ファのスケッチで比較して見ましょう。ま
ずソファ全体を少し弱め（見える程度）の線
で描きます。次にソファの下部分を濃く太
く強く、そしてソファのサイドの垂直面（ソ
ファの右）を濃く太く強く描きます。これ
はどの方向が明るいのか、つまり窓の方向（明
るいところ）を決めて行きます。この場合は
描いていませんが画面の左に窓があるとい
う設定にしました。このテクニックを覚えるだ
けでかなりいい感じになってきたと思いま
す。ソファをさらに立体的に表現する手法
としてグラデーションがあります。コツはグ
ラデーションを45度に統一して勢いよくス
ピーディに描きます（図3）。このグラデー
ションが使いこなせるとより、スケッチの表
現の中がさらに広がります。

ソファ全体を少し弱めの線で

ソファの下部分を濃く太く強く



45度に統一して勢いよくスピーディに

〈図3〉

客前着彩テクニク

スケッチ語を覚え、少しずつ空間が描けるようになったら着彩をしてみよう。

客前での着彩ですから時間をあまり掛けない方法をとります。速く塗るより、いかに(余分を)塗らないかがポイントになります。大まかな空間の雰囲気伝わればいいので客前では多くの色を使う必要はありません。

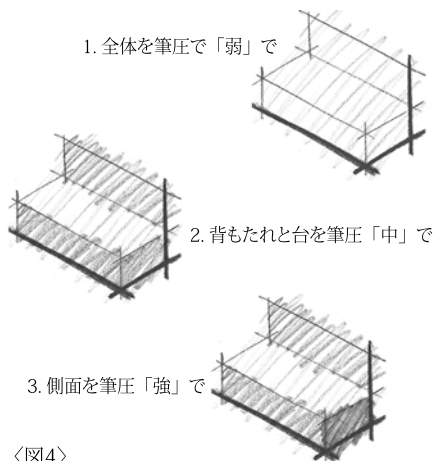
ここでは手軽なスケッチ画材として色鉛筆による着彩を紹介します。私は大体6色ぐらい(レッド、ライトブルー、ライトブラウン、オレンジイエロー、ダークグリーン、ウォームグレー)の色数で対応しています。着彩法として筆圧のコントロールをします。取りあえず3段階「弱」「中」「強」位できればいいでしょう。

それではソファを描いてみましょう。

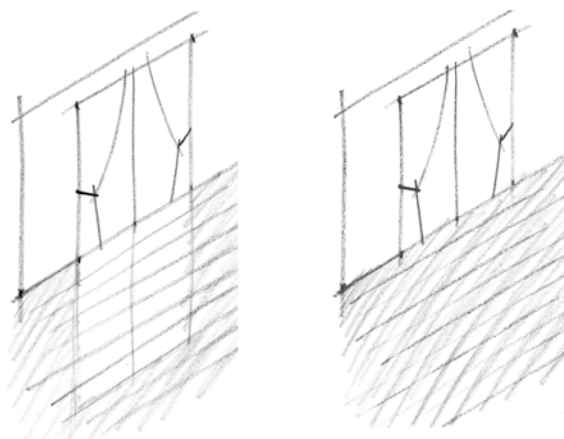
1 全体を筆圧「弱」で塗ります。

2 背もたれと台部分を筆圧「中」で塗ります。

3 側面を筆圧「強」で塗ってソファの着彩の完成です(図4)。



〈図4〉

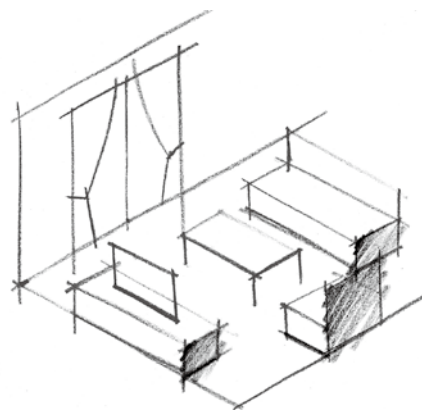


〈図5〉窓の床への映り込みを表現した例(左)と表現しない例(右)

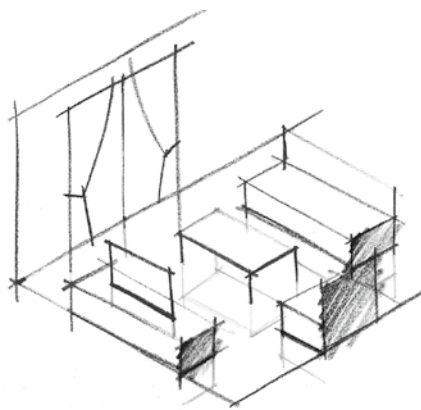
多少難しいかも知れませんが色鉛筆による床の表現をマスターすると表情豊かな空間に生まれ変わります。ここでもいかに余分を塗らないかがポイントです。床を全面塗ると時間が結構掛かってしまうのと何よりも味のないスケッチになってしまうので多少慣れるのに練習が必要です。ポイントは開口部(窓)の床への映り込みと家具や設備の映り込みの表現です。

図5は映り込みを表現しないで描いた掃き出し窓のスケッチと映り込みを表現したスケッチの比較です。着彩法は窓と同じ寸法分だけ塗り残します(図5)。

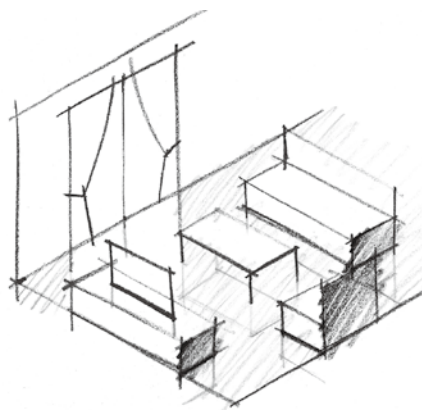
リビング空間で練習してみましょう



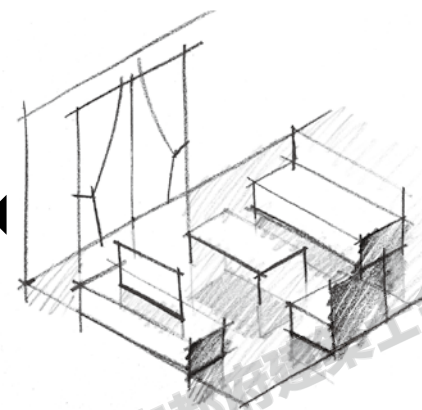
〈図6〉基本のリビング空間



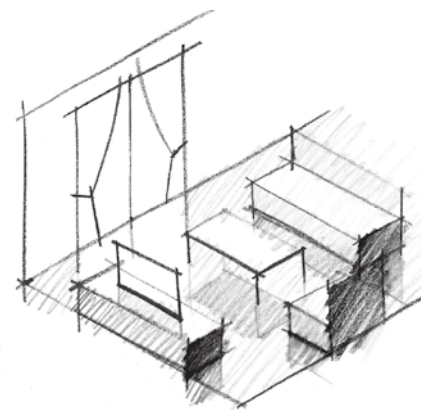
〈図7〉窓、家具等同じ寸法分の床に映り込みの線を床の色で描いていきます



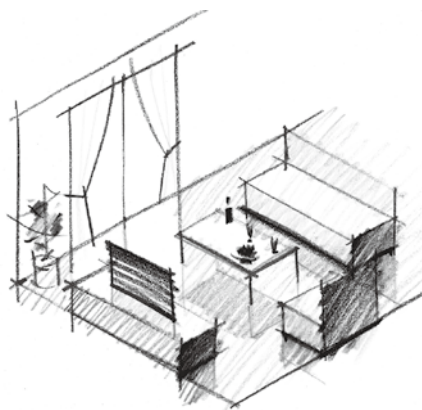
〈図8〉窓の映り込みを残して床全体を弱めに薄く大雑把に45度で塗ります



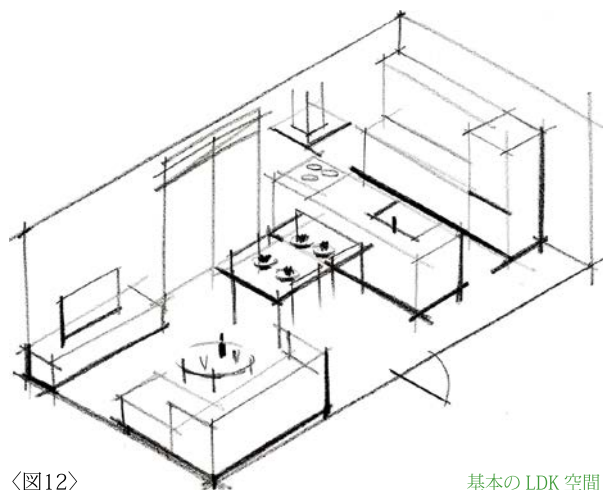
〈図9〉家具の映り込みを濃目に塗ります



〈図10〉ソファを塗ります。座面を明るく、台、背もたれは濃く強く

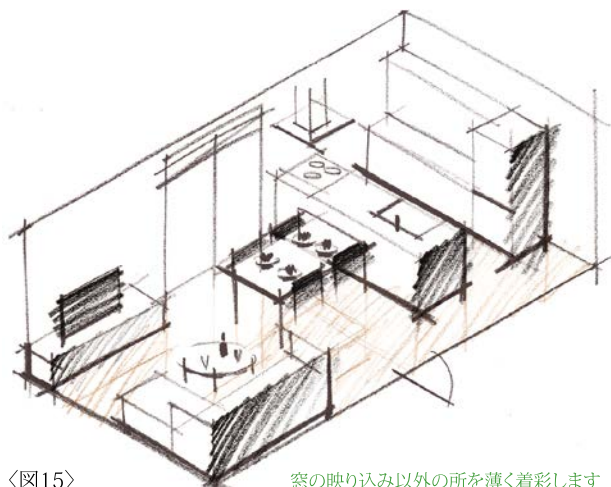


〈図11〉小物、植栽など描き込んで完成



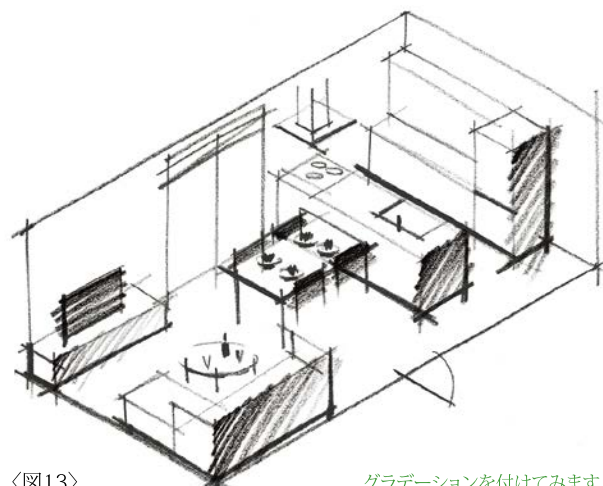
〈図12〉

基本のLDK空間



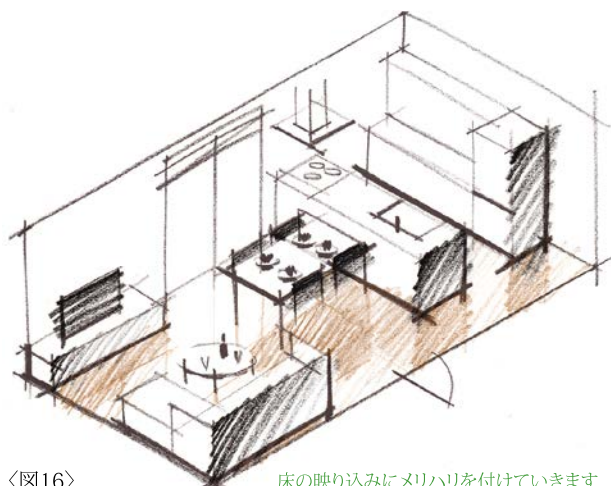
〈図15〉

窓の映り込み以外の所を薄く着彩します



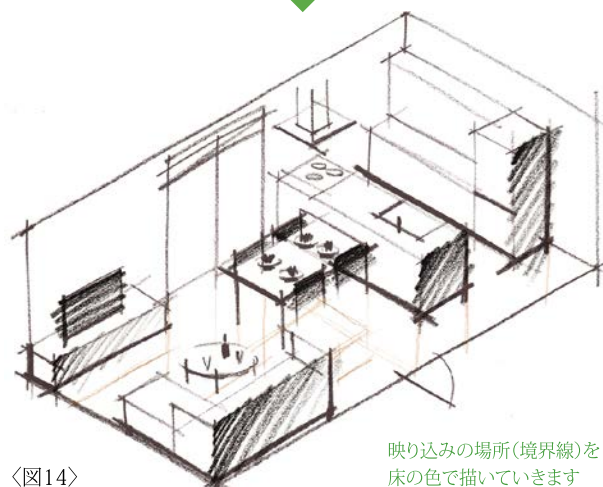
〈図13〉

グラデーションを付けてみます



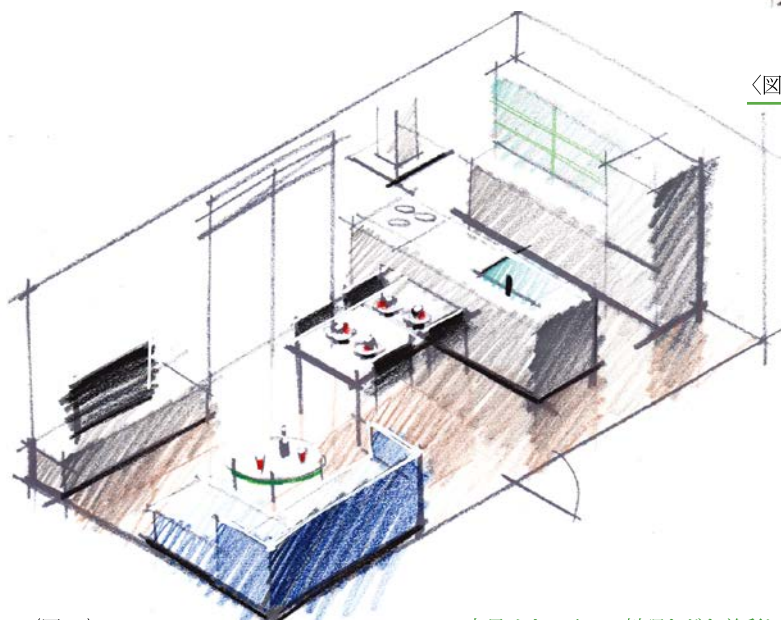
〈図16〉

床の映り込みにメリハリを付けていきます



〈図14〉

映り込みの場所(境界線)を床の色で描いていきます



〈図17〉

家具やキッチン、料理などを着彩して完成

次回はより情緒性のあるプレゼンテーションスケッチテクニック、パステル着彩について紹介します。
(タイトルバックのパステル着彩参考例は、逆光で光と影を描いた「消点透視パース」のリビング空間です。)

いろいろな場面でのプレゼンテーションに対応出来るメモ・スケッチから簡単立体紙模型まで。
目指すは「お客さんの求めるメニューを料理してもてなす」大衆食堂のオヤジ。



長谷川矩祥

Hasegawa Noriyoshi

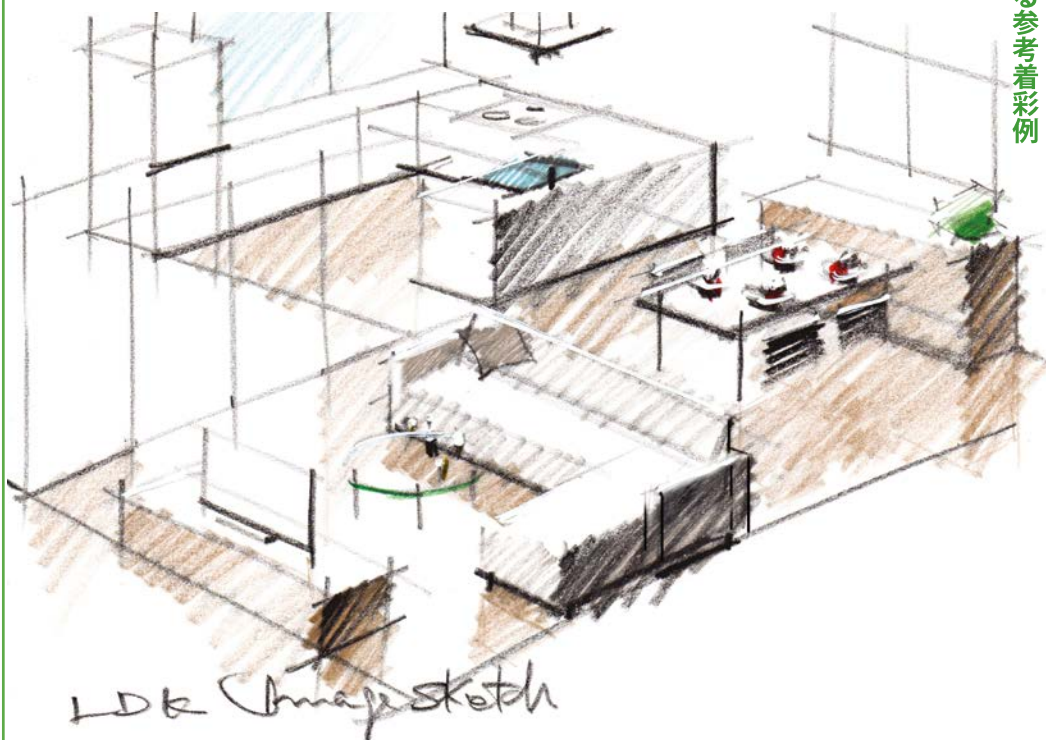
ヤマハで主に楽器（プロ向けのギター。ジョン・レノン、カルロス・サンタナ、他）のデザイン、スポーツ用品、ロゴマーク等を手掛ける。

現在独立して住宅関連の研修、講演（スケッチ、パース、プランニング、プレゼンテーション）。
ロゴマーク、パース制作。

著作はグラフィック社から「住まいのスケッチ・スピードトーク」他、HIPS 出版から「メモスケ」他。

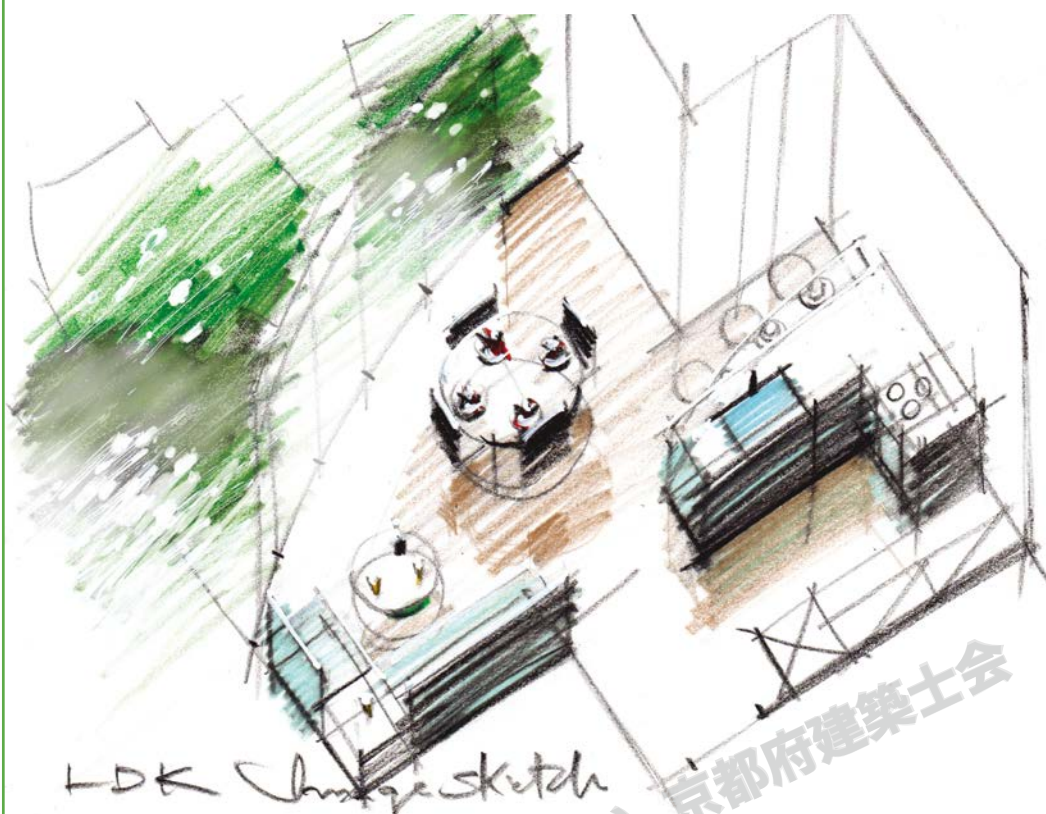
【セールスポイント】何事も楽しく、わかりやすくがモットー。

【ホームページ】
<http://hasenori.macmate.me>



▲L型キッチンのあるLDK空間。ほぼ、床への映り込みの着彩で表現した例です。

緑のラウンジがある空間。植栽をスケッチの中に積極的に取り入れて描いてみました。▼



(一社) 京都府建築士会

クライアントの心を動かす スケッチプレゼンテーション講座 〈第3回〉

長谷川矩祥 Hasegawa Noriyoshi

パステル着彩スケッチについて

今回は色鉛筆による着彩テクニックを解説しました。今回はパステルを使ったプレゼンテーションスケッチテクニックの紹介です。

パステルスケッチの魅力は何と言っても「ぼかし」です。これによって「やわらか」で「あたたかみ」のある表現ができます。それと豊かな「光」と「影」の表現が可能になります。家具、設備、建具等の物の具体的な表現はもちろん大切ですが今回は「空間のシーン」の表現を勉強していきます。例えばその空間はどんな雰囲気なのか、スケッチから温もりなどが少しでも伝わればと思います。

そしてスケッチを描くときの私自身のこだわりですが「逆光で描く」。つまり開口部(窓)が向こう側にあるスケッチを描くことに心掛けています。窓から家の中を覗いたスケッチは描かないようにしています(なるべく)。部屋の中から外を眺めた方がいい。向こうが暗いより気持ちが好きそうです。

当初はお客さんの前で打ち合わせをしながらの着彩テクニックとしてこの手法を捉えていましたが現在ではリアル感のあるCG(コンピュータ・グラフィクス)パースが全盛の時代、写真のようなパースが提供されています。しかしあまりにリアルすぎて施主から建物が出来上がった「提案してくれなかったパースと実物と違う」と逆にクレームになったという話も聞きます。「これです」

ではなく「こんな感じ」の曖昧な部分が残っている手描きのスケッチの適当さがいいのかもしれないですね。又、差別化として「手描き」の「味」に価値を求めるところも出てきました。

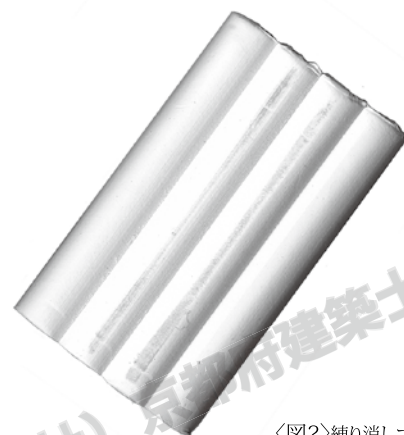
パステル(図1)にもいろいろな種類があつて柔らかすぎたり硬すぎたりと意外に私の求める程良く使い易いものが少なく、いろいろ試してみてニューパステル(現在入手しにくい)とホルベインのセミハードタイプを使用。



〈図1〉パステル

また着彩画材ではありませんがパステル同様に重要なのは練り消しゴム(図2)と修正液(図3)。練り消しゴムは「明るさ」「光」の表現。修正液はさらに「輝き」「ハイライト」の表現には無くてはならない画材です。

使用する最適な紙はPMパッド(パステル、マーカーの発色、ノリが良い)ですが今回は汎用性のある普通紙を使って描きました。

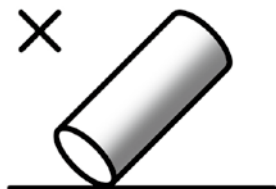


〈図2〉練り消しゴム

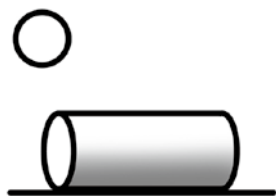


〈図3〉修正液

それではパステルを使って描くプレゼンテーションスケッチのプロセスを解説します。パステルの使い方の方は基本は主に床などの広い面をムラなく塗るにはパステルの側面を使って塗ります(図4)(図5)。基本作業としてパステルの白で下地を作っていきます(ムラなく塗るための作業)。



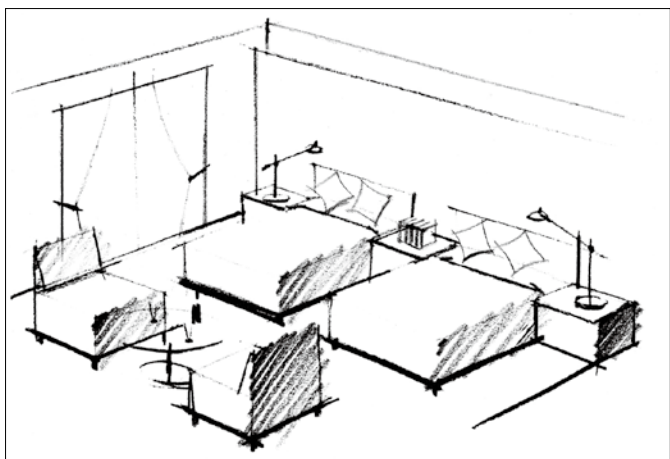
〈図4〉パステルの角ではなく...



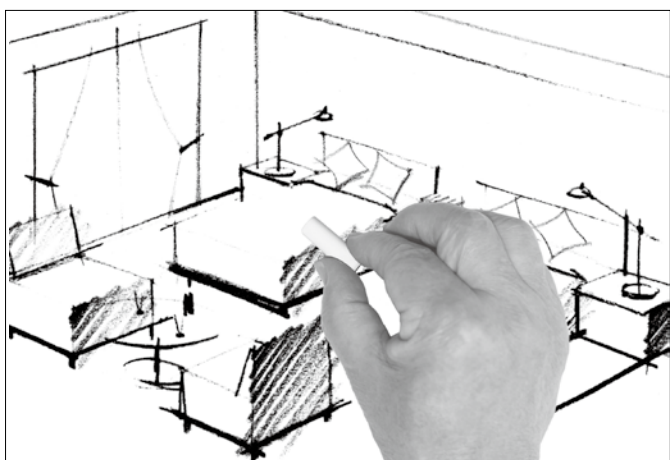
〈図5〉パステルの側面を使って

線画は前回解説したスケッチ語を使って描き起こしたアイソメ（平行透視画法）で寝室空間を描きます。

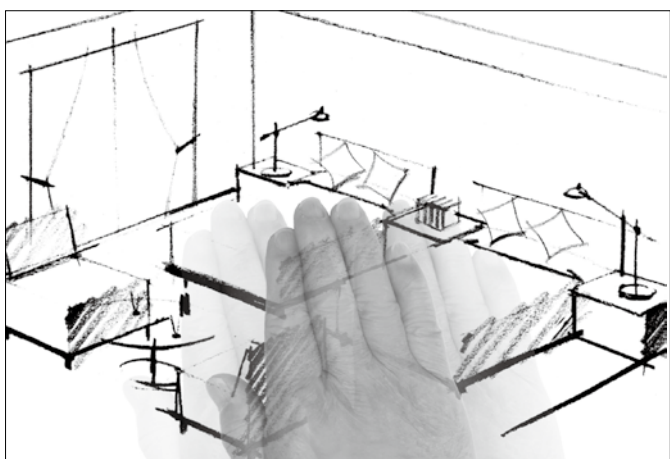
なぜ寝室なのかですが、ベッドのやわらかさや照明効果の表現等、パステルを理解するには最適の空間だからです。



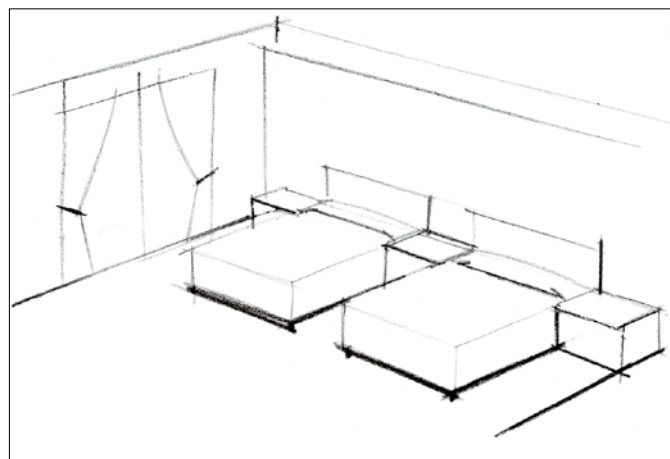
3 ボトルやグラス、照明器具、クッションなどを描き込み、陰をグラデーションで入れます。



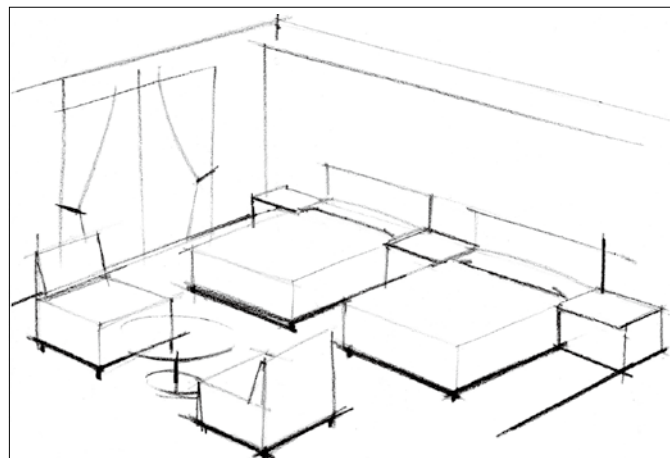
4 パステルの白を紙、全面に直に塗っていきませんがあまり強く塗らないように（これから塗るパステルがムラにならないための下地作り）します。



5 指で撫でるように均していきます。



1 まずベッドを描いて、次にナイトテーブル、そして壁、掃き出し窓、カーテン等を描きます。



2 次にソファとリビングテーブル。

長谷川矩祥

Hasegawa Noriyoshi



ヤマハで主に楽器（プロ向けのギター。ジョン・レノン、カルロス・サンタナ、他）のデザイン、スポーツ用品、ロゴマーク等を手掛ける。

現在独立して住宅関連の研修、講演（スケッチ、パース、プランニング、プレゼンテーション）。ロゴマーク、パース制作。

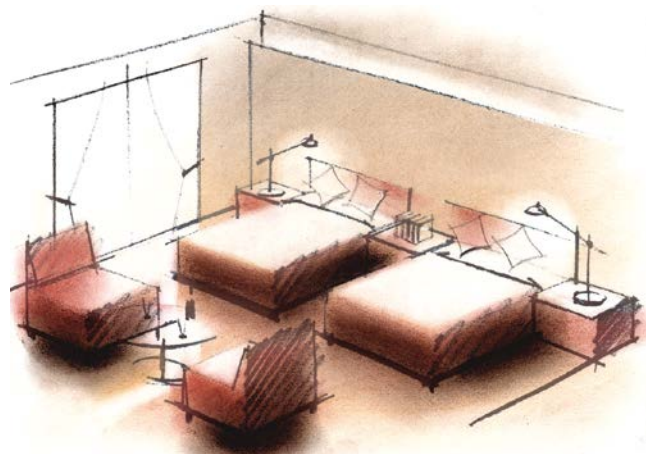
【著作】グラフィック社から「住まいのスケッチ・スピードトーク」他、HIPS 出版から「メモスケ」他。

【セールスポイント】何事も楽しく、わかりやすくがモットー。

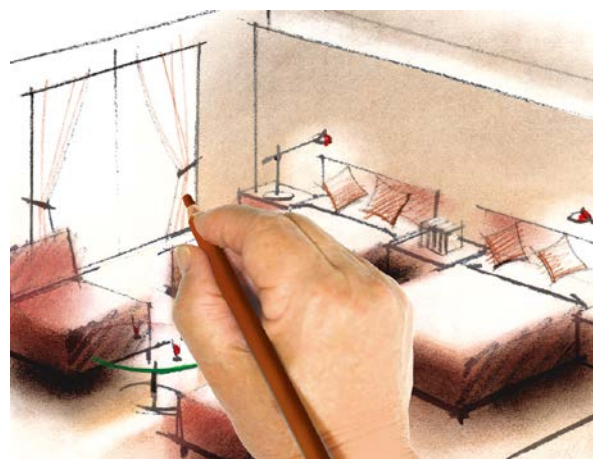
【ホームページ】
<http://hasenori.macmate.me>



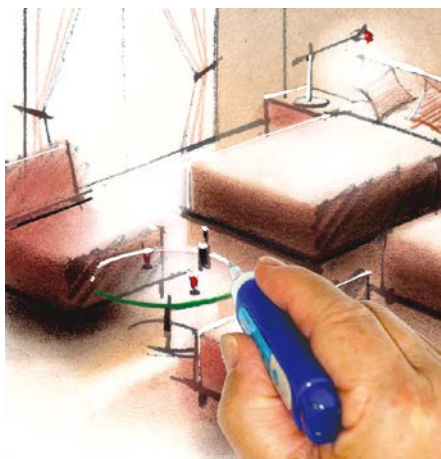
11 色がはみ出したところを練り消しゴムで消します。



12 掃き出し窓の明かりを基準に反対側の面を黒で影付けます。黒を入れることでスケッチとして大分格好がつかってきました。

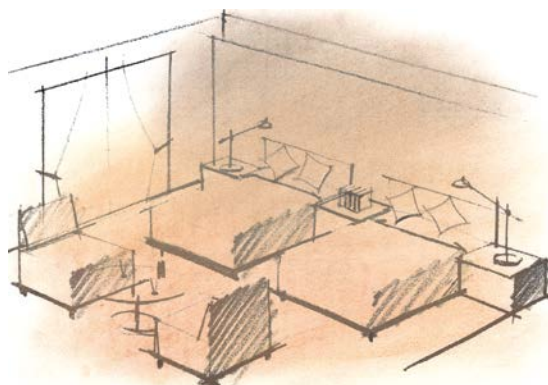


13 色鉛筆でカーテンのヒダや照明器具、クッション、小物などに着彩。

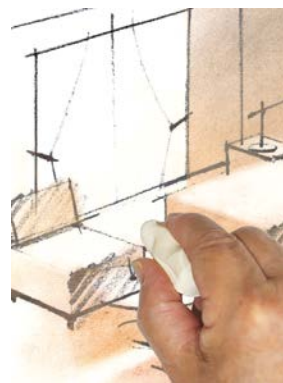


14 さらに光らせたいところ、輝かせたいところを修正液で描き込みます。

6 次にベージュ系でムラがないように塗り、均します。

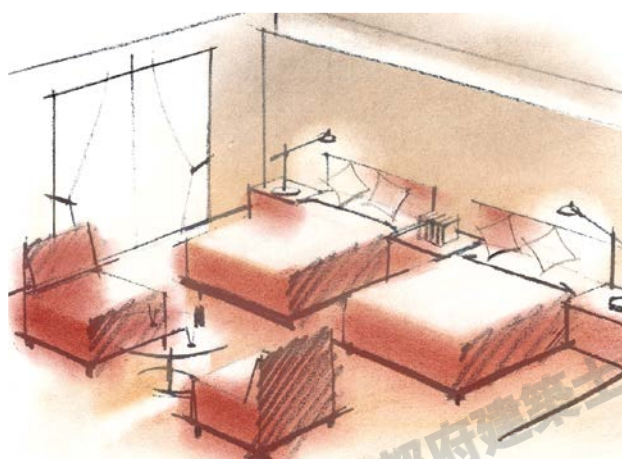


7 ベッドやソファ、テーブルなどの上面を練り消しゴムで色を落とします。色を落とすと言うより、光を入れるという言い方のほうがいいかもしれません。練り消しゴムは紙に押しつけるのではなく掃くようにして使います。

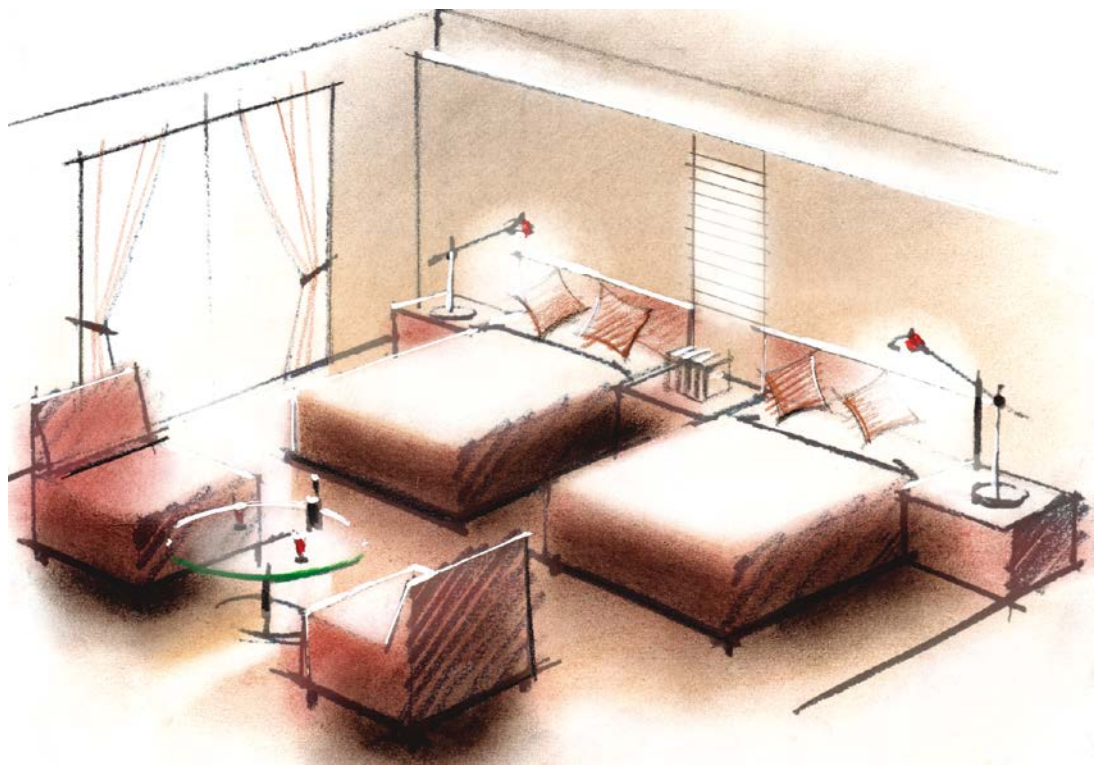


8 掃き出し窓と床の部分を練り消しゴムで光を入れます。

9 照明効果を練り消しゴムであかりの柔らかなグラデーションになるように照明器具の光、壁の間接照明を表現します。



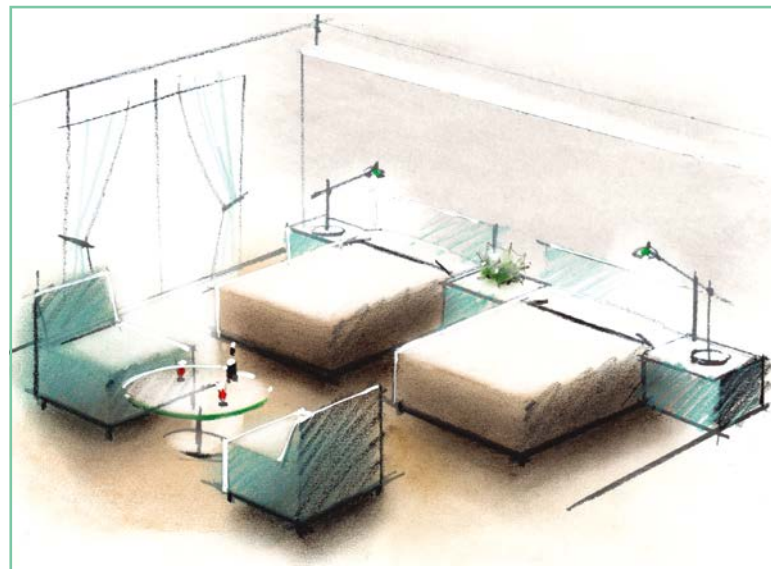
10 ベース色のベージュからすこしアクセントを付けるためにブラウン系でベッド、ソファを塗ります。



15 昼と夜を組み合わせた表現の寝室空間のスケッチ完成

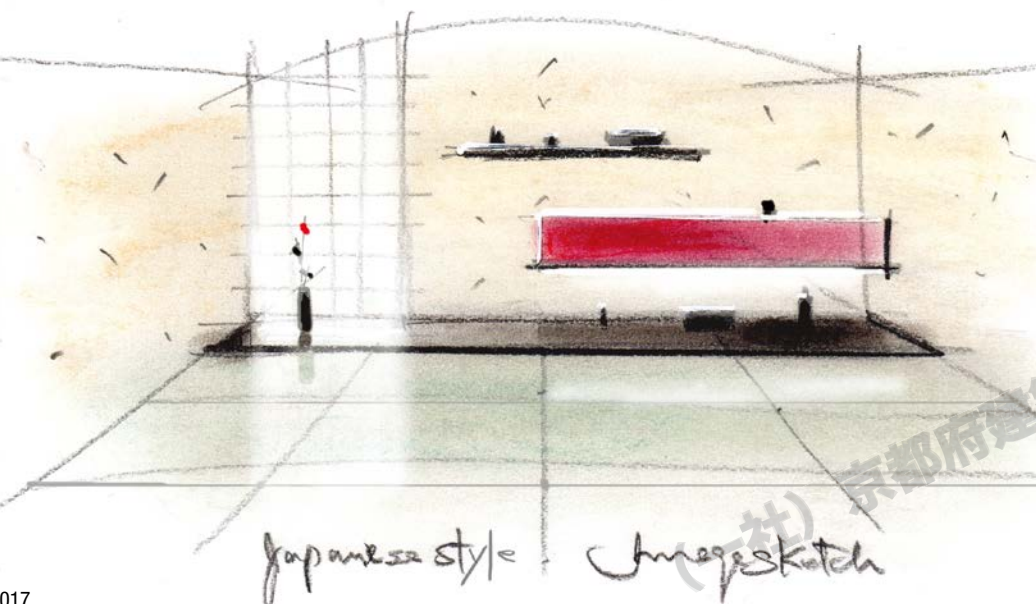


完成したスケッチの原画をデータとしてパソコンに取り込みPhotoshop (パソコンソフト) を使って少々、加工してみたのが夜の寝室空間の照明効果を表現したスケッチ



色のバリエーションの1つとして検討したブルー系で描いたスケッチ

より「光と影」を大切にしていかに「描かない」か、そして「塗らない」を追求。スケッチの中に「ものがたり」が感じられるようなプレゼンテーション・スケッチテクニックを解説していきます。



次回（最終回）は1消点透視スケッチについて紹介していきます。
【参考例】タイトルバック・マンシヨンのDK空間
左図／和空間

クライアントの心を動かす スケッチプレゼンテーション講座

〈第4回 最終回〉

長谷川矩祥 Hasegawa Noriyoshi

《1 消点透視画法》 スケッチについて

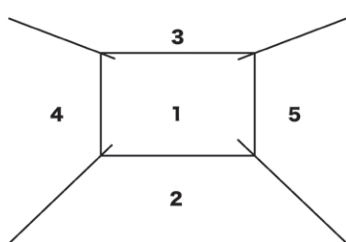
今回（最終回）はクライアントの心を動かすプレゼンテーションスケッチについて紹介します。

スケッチで人の心を動かすのは大変な事です。クライアントの要望に対して期待通りではなく、期待以上のアウトプットが出来た時に心を動かす下地が調ったと考えています。物の表現だけではなくそこに「ものがたり」を感じさせる。例えば時間経過（昼と夜）、季節感（四季の移ろい）などです。

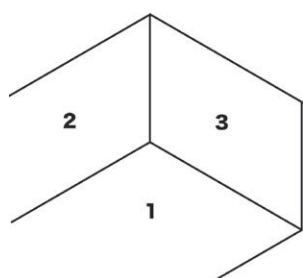
具体的に描く前に一消点透視画法についての簡単な解説をします。

一消点透視は遠近感が付けられるので、比較的現実に近い雰囲気の間表現が出来、目の前の空間の床、天井、正面の壁と左右のそれぞれの壁、合わせて計五つの面が描けるので、空間の様子が見る人にわかりやすく伝えられることが特長になります（図A）。

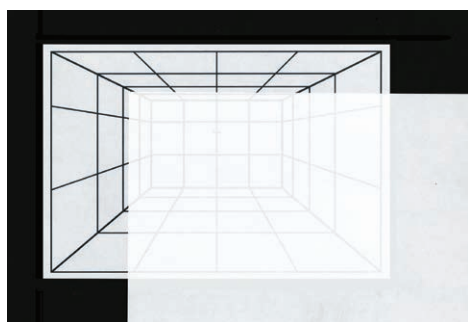
前号まで紹介してきたアイソメ（平行透視画法）は三つの面（床、壁二面）をおお



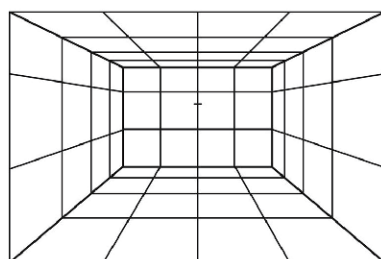
〈図A〉一消点透視画法



〈図B〉アイソメ（平行透視画法）



〈図D〉ガイドを下敷きに



〈図C〉一消点透視画のスケッチ・ガイド

よそ三つの角度で表現することが出来ましたが（図B）一消点透視の場合はそういうわけにはいきません。

五つの面を描く、そこには様々な角度の線が必要になり、又厄介なことの遠近感を付けなければいけないと言うことで比較的簡単に描きたいので私はガイド（図C）を使って描いています。そのガイドを下敷きにすれば比較楽に描くことが出来ます（図D）。入手は私のホームページの「スケッチ・ガイド」からダウンロードしてください。

長谷川矩祥 Hasegawa Noriyoshi



ヤマハで主に楽器（プロ向けのギター。ジョン・レノン、カルロス・サンタナ、他）のデザイン、スポーツ用品、ロゴマーク等を手掛ける。

現在独立して住宅関連の研修、講演（スケッチ、パース、プランニング、プレゼンテーション）。
ロゴマーク、パース制作。

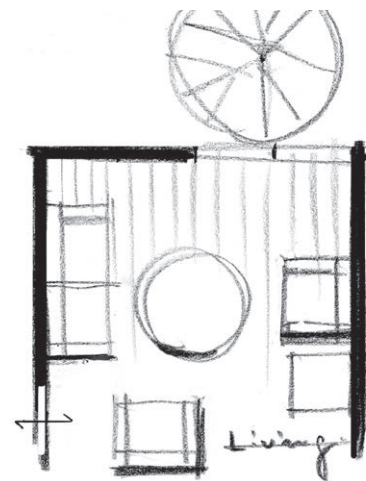
【著作】グラフィック社から「住まいのスケッチ・スピードトーク」他、HIPS 出版から「メモスケ」他。

【セールスポイント】何事も楽しく、わかりやすくがモットー。

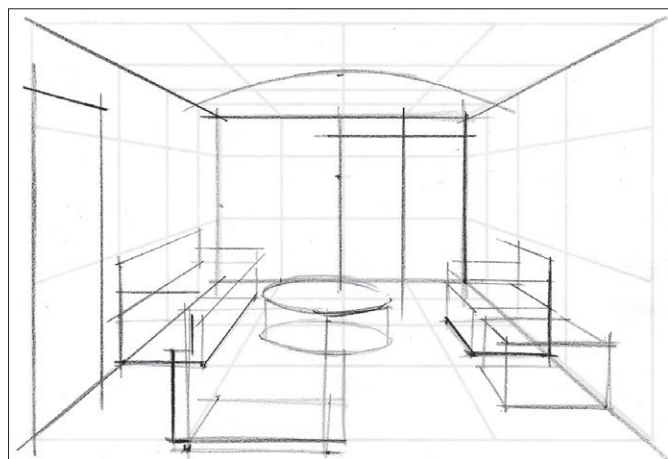
【ホームページ】
<http://hasenori.macmate.me>



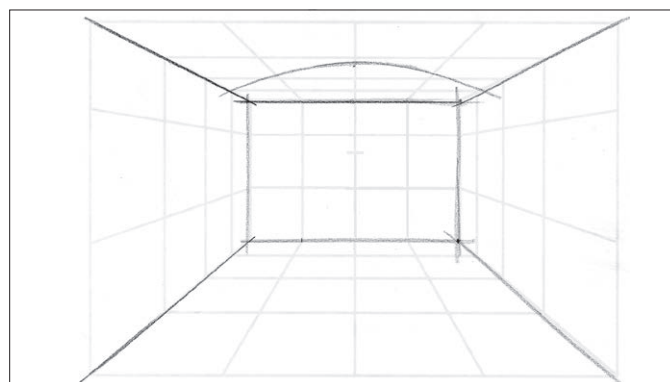
- まずリビング空間を描いてみましょう。
- 1 参考平面プランを元にガイドを下敷きにして床、壁、天井「アーチ天井」を描きます。
 - 2 次に正面の壁に掃き出し窓と出入口を描きます。
 - 3 床に家具の配置ガイドを意識しながら薄目に描きます。
 - 4 家具の高さに注意しながらを立体化して描いていきます。
 - 5 フローリングの線や小物や照明などをプラスします。
 - 6 全体を調整しながらメリハリ、陰影のグラデーションを描きます。
- これで線画は完成。



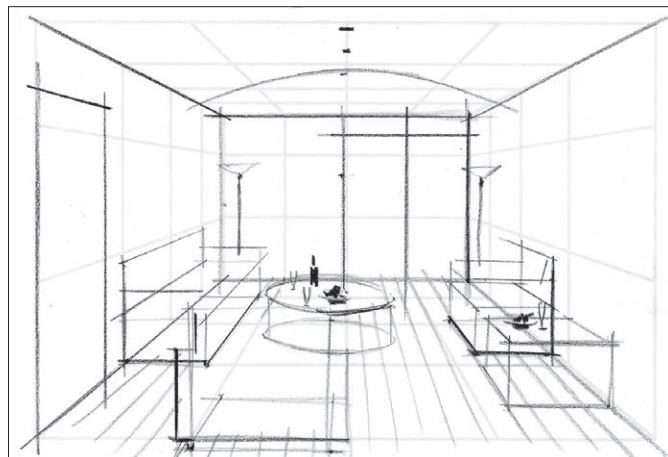
参考平面プラン



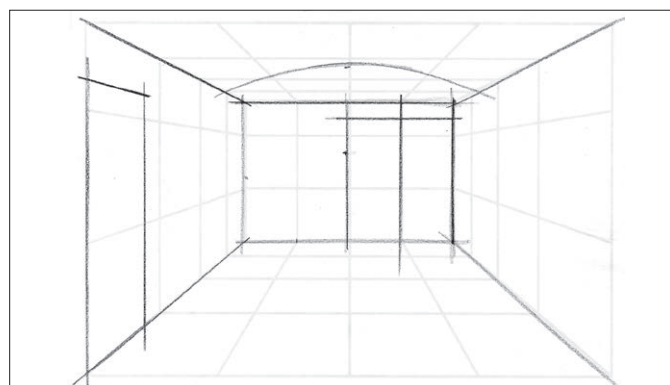
4 家具の高さに注意しながらを立体化して描いていきます。



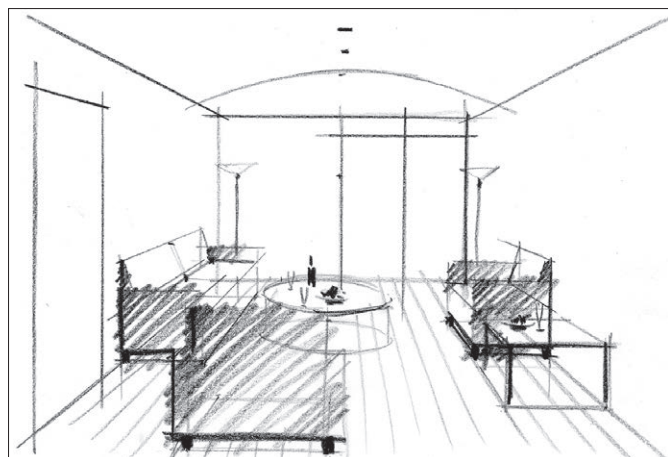
1 参考平面プランを元にガイドを下敷きにして床、壁、天井「アーチ天井」を描きます。



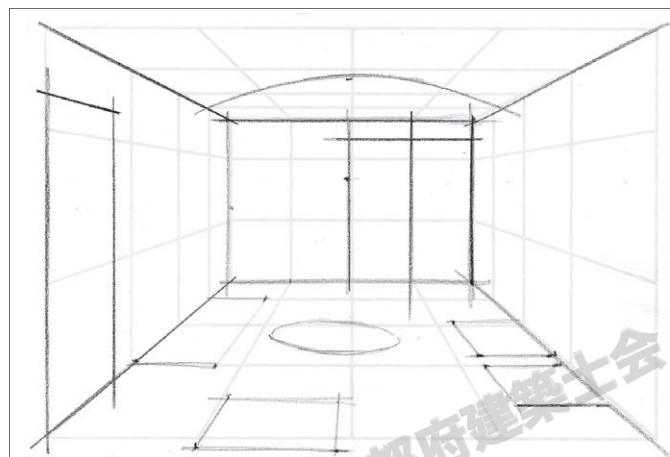
5 フローリングの線や小物や照明などをプラスします。



2 正面の壁に掃き出し窓と出入口を描きます。



6 全体を調整しながらメリハリ、陰影のグラデーションを描きます。



3 床に家具の配置ガイドを意識しながら薄目に描きます。

着彩は前号で紹介したパステルです。

7 まず壁にかかるぐらい大胆に床を塗り、そして天井を着彩。

8 練り消しゴムで明るくしたい所のパステルを落とします。

9 次に黒色で陰を塗ります。

10 ソファ、小物などは色鉛筆で着彩。

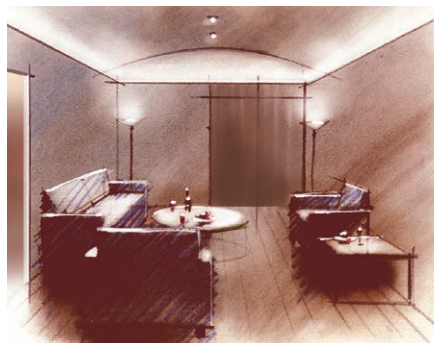
11 最後に修正液でハイライトを入れて完成。

このスケッチを照明効果のある夜のスケッチに変身させることによってリビング空間がさらにくつろぎ感のある空間になります。(図12 a・b)

スケッチとしては一枚描くだけですが少しだけ加工して昼と夜のスケッチを2枚ペアでクライアントに提示すればかなり印象的なプレゼンテーションが出来ます。



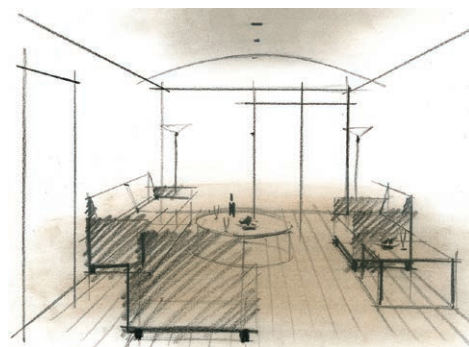
11 最後に修正液でハイライトを入れて完成。



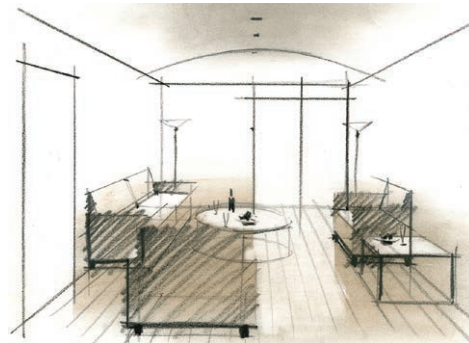
12-a 描いたスケッチをカラーコピーして全面を濃茶系のパステルで大胆に塗り、練り消しゴムで光の範囲、明るさを調整しながら照明効果を表現します。



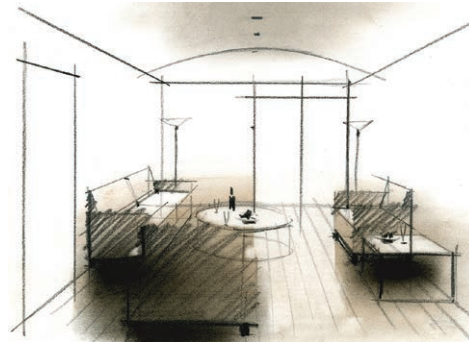
12-b もう一つの方法は描いたスケッチをデータ化〔コピー〕してコンピュータソフトのPhotoshopで仕上げると、同様に雰囲気のある空間になります。



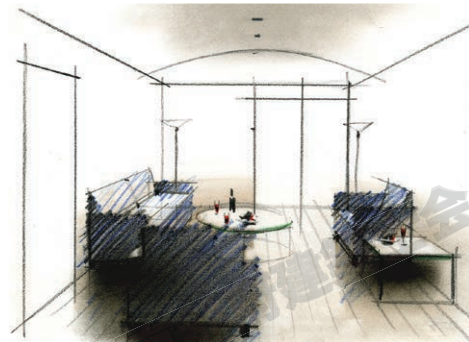
7 まず壁にかかるぐらい大胆に床を塗り、そして天井を着彩。



8 練り消しゴムで明るくしたい所のパステルを落とします。



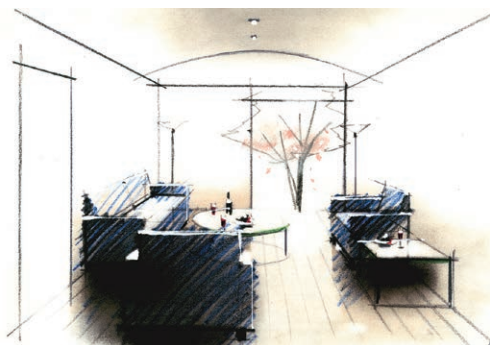
9 次に黒色で陰を塗ります。



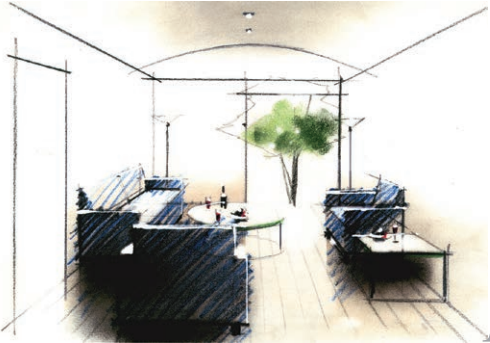
10 小物などは色鉛筆で着彩。

季節の移ろいを感じるリビング空間

部屋の中だけのスケッチではなく外の景色を表現すればさらに住まい手の心に残るプレゼンテーションが出来るでしょう。例えば室外にちよつとした空間があればそこに季節によって変化が楽しめる樹木を植えてみる。桜などどうでしょうか花見の季節だけではなく新緑、紅葉と楽しめます。



13



14



15

先ほど描いたリビング空間の正面の窓の向こうには桜。部屋からお花見が出来ます(図13)。
季節は初夏に「桜に見立てた色のパステルを消して深緑を着彩」(図14)。
そして秋になって桜の葉が色づき紅葉の季節(図15)。

お月見の出来るテラスハウス

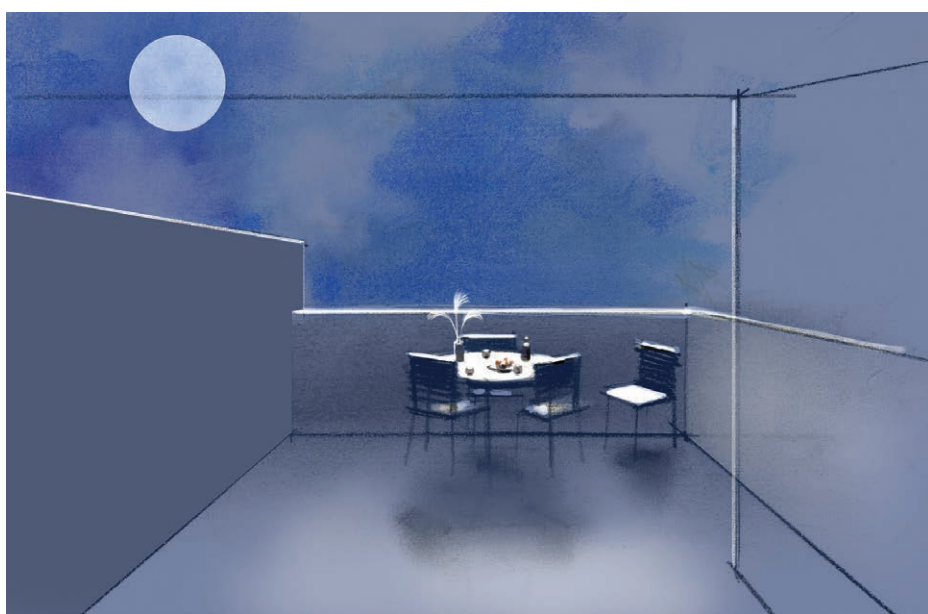
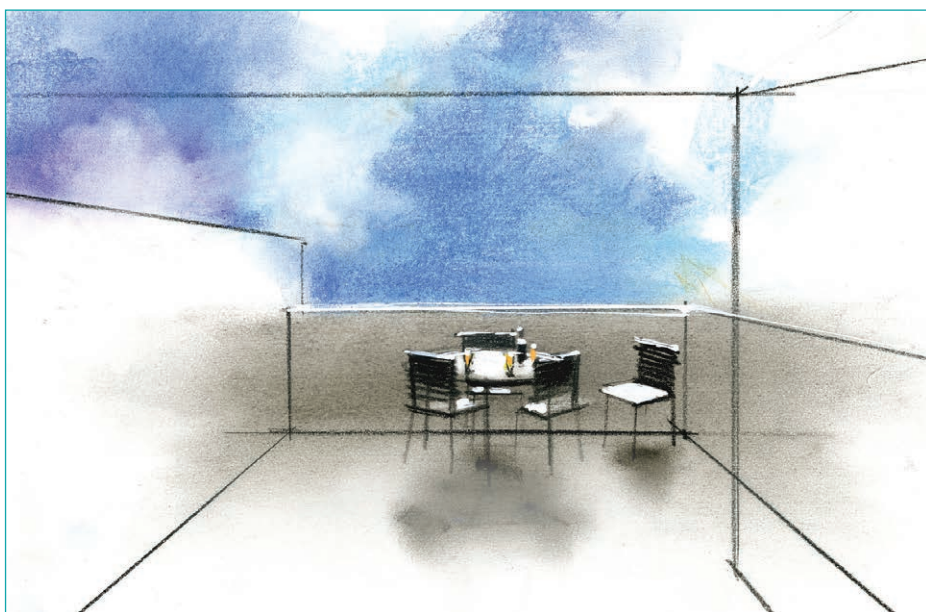
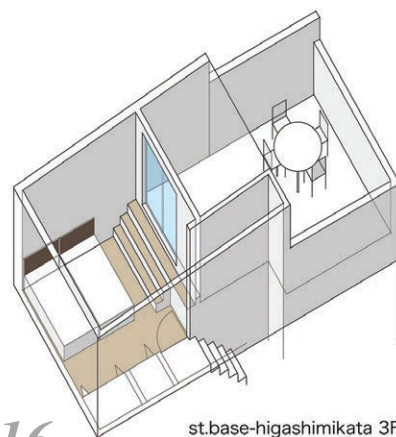
月見は、別に特別な空間が無くても空を見上げて月を見れば済みます。

このようにあまり気に止めないような事柄も実は効果的なプレゼンテーションになり得ると思います。何か普段は忘れていて、ふとゆっくりと空を眺める時間を取れていなかったことに気づかせてくれるのが「お月見」なのかも知れません。大切な日本的な文化の一つなのでしょね。

それを大袈裟な舞台を作ってみましようと言う話ではなく、普段の暮らしの延長線上で出来る事がポイントになります。

例えば三階の寝室の横に約10・5畳のルーフバルコニーがあります(図16)。天気の良い日はここでビールでも飲みながらノンビリと(図17)。

空はパステルのブルーで全体を塗ってから練り消しゴムで雲を描きます。雲ひとつ無い青空よりも雲が幾つかあった方がアクセントになってスケッチ映えます。



これに対して「お月見」の場面では机の上のビールを日本酒に変えてそして小さな花瓶にススキ二、三本ほど、あとは空に月があれば言うことなしです(図18)。このスケッチもフォトショップに少し手伝ってもらって完成。

4回にわたって「スケッチプレゼンテーション講座」を掲載してきました。

基本的な考え方は、絵にあまり時間を掛けないということです。プレゼンテーションで描く絵によく使う「パース」という言葉ではなく「スケッチ」としたのはこの理由です。

初期段階に客前で描くメモスケッチから少しだけ時間を掛けたプレゼンテーションスケッチまで解説してきました。

簡略化、省略化はやってみると意外に難しいことに気が付きます。ついつい描いているうちに描きすぎてしまうことがよくあります。「描くもの」「描かないもの」の判断が必要です。

出来るだけ情報を整理することで住まい手に「わかりやすい」「伝わりやすい」プレゼンテーションになります。